

## 北部圏域における発達障害者支援体制の状況

	乳児期	幼児期	学童期	青年期
保 育 ・ 教 育	親子ふれあい事業（離島巡回）			
	乳幼児検診（名護市乳幼児健診検討会）	4歳健康相談（北部福祉保健所）		
	沖縄県障害児等療育支援事業（「よちよち」・「外来保育」・外来療育・施設支援）			
		障害児保育・障害保育巡回指導・名護市幼稚園派遣事業		
		やんばるつみきの会	国頭地区地域特別支援連携協議会	
			名護市教育委員会 SST 教室「とうや」	
医 療	「ひびきの会」（北部福祉保健所＋県立北部病院小児科＋名護療育園）			
	発達支援外来（名護療育園）・小児思春期外来（国立療養所琉球病院）・発達障害外来（ノーブルメディカルセンター）			
	発達障害に関するサポート体制懇談会			
生 活 ・ 福 祉	市町村障害者相談支援事業（「うむさばる」・「ウェーブ」・「ハーモニー」）・発達障害者支援センター			
	名護市ファミリーサポート事業			
	障害児デイサービス（「カラーズ」・「にこにこ」・「スキップ」・「きらり」）			
	幼児ことばの教室（名護市・本部町・今帰仁村）			
	名護市発達障がい児（者）支援拠点事業「にこにこ」			
	うむさばる相談支援事業活動拠点「わいわい・がやがや」			
	北部福祉保健所思春期相談関連機関連絡会			
	就労支援センター「ティータ・チムチム」			

平成 22 年 9 月 1 4 日（火）

## 北部圏域における発達障害者支援の現状（コメント）

名護療育園 泉川良範

### 特 性

- 1) 関係機関が限られているので、関係機関同士の連携がとりやすい。
- 2) 障害児者の地域への依存度が高く、専門機関への依存度が低い。
- 3) 結果として、サービスがなくてもやっつけている面がある。そのためニーズの掘り起こしが難しい（情報不足に加えて、自覚しづらい）
- 4) 専門機関への依存と期待度が低いため、不満が起こりにくい。利用者とサービス提供者のコミュニケーションが多面的であるので、よい関係が作りやすい。
- 5) 結果として、暮らしやすさにつながっている。
- 6) 社会経済的課題（所得や雇用など）が地域全体を覆っている。

### 課 題

- 1) 名護市と名護市以外では、差が大きい。
- 2) サービスの専門性を高める必要があるが、情報不足と人材不足。
- 3) 人口が少ないために、サービス提供にあたっては、利用定数基準や出来高払いのシステムにより制約を受ける。

### 提 案

- 1) 僻地・離島の支援体制モデルでは、地域のサービス資源を活用するための（地域への依存度を活用するための）コーディネート機能を充実。
- 2) 専門機関としての北部福祉保健所のコーディネート機能が重要。
- 3) 人材育成の難しさを考えると、圏域外の専門アドバイザーのニーズがある。
- 4) サービス提供における定数制や出来高払いのシステムの変更や緩和を行う。